決算のご報告（第３四半期） 連結財務諸表（要旨）

四半期連結貸借対照表

単位：百万円

	第58期 第3四半期 2011年12月31日	第57期 2011年3月31日
資産の部		
流動資産	82,137	77,942
固定資産	49,476	44,008
資産合計	131,613	121,951
負債の部		
流動負債	38,870	33,593
固定負債	15,953	15,206
負債合計	54,824	48,800
純資産の部		
株主資本	80,296	75,928
その他	△ 3,506	△ 2,777
純資産合計	76,789	73,150
負債及び純資産合計	131,613	121,951

四半期連結損益計算書

単位：百万円

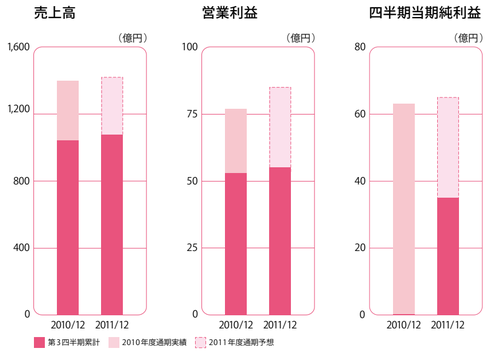
	第58期 第3四半期 2011年4月1日～2011年12月31日	第57期 第3四半期 2010年4月1日～2010年12月31日
売上高	107,551	104,401
売上原価	79,511	77,116
売上総利益	28,039	27,284
販売費及び一般管理費	22,513	21,900
営業利益	5,525	5,383
営業外収益	555	740
営業外費用	154	136
経常利益	5,926	5,987
特別利益	330	345
特別損失	1,120	3,087
税金等調整前四半期純利益	5,137	3,246
四半期純利益	3,503	12

営業利益増について

- 書籍関連、ネット・デジタル関連の好調により、売上高は前年同期比3,150百万円の増加。書籍関連は、一般文庫、コミックス、ライトノベルの各ジャンルで好調を維持。ネット・デジタル関連もパッケージゲーム、ネット通販事業が好調で、売上を伸ばしました。
- 継続的にコスト削減に取り組んでいますが、12月からメディアファクトリーが新規連結。さらに宣伝費、販売促進費などの増加により、販売費及び一般管理費は、前年同期比612百万円増。

四半期純利益増について

- 前年同期は、税金等調整前四半期純利益3,246百万円に対して、法人税等3,134百万円、少数株主利益99百万円により、12百万円。
- 当期より、連結納税制度を採用したため、税金等調整前四半期純利益5,137百万円に対して、法人税等1,530百万円、少数株主利益103百万円となり、四半期純利益が3,503百万円となりました。



会社役員

取締役会長	角　川　歴　彦
代表取締役社長	佐　藤　辰　男
常務取締役	井　上　伸一郎
取締役	関　谷　幸　一
	椎　名　　保
	太　田　　修
	谷　口　常　雄
	山　口　　貴
	髙　山　康　明
	松　原　眞　樹
社外取締役	久夛良木　　健
	船　津　康　次
	森　泉　知　行
	川　上　量　生
常勤監査役	江　川　　武
	水　島　　真
社外監査役	池　田　　靖
	渡　邊　　顯

角川グループホールディングスのホームページはIR・財務情報に加え、皆さまに角川グループの事業内容をより深くご理解いただけるよう、グループ各社の最新情報や話題、事業展開などを満載しています。ぜひご覧くださいますようお願い申し上げます。

http://www.kadokawa-hd.co.jp/

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
定時株主総会の基準日	3月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 TEL 0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告 公告掲載URL http://www.kadokawa-hd.co.jp/ （ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

角川グループホールディングス

KADOKAWA GROUP HOLDINGS, INC.
株式会社 角川グループホールディングス
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
電話03-3238-8411

VEGETABLE OIL INK

プレゼントのお知らせ

合計20名様

今回のプレゼントは、『ビブリア古書堂の事件手帖』（著者・三上延氏）1、2巻セット、または4月21日劇場公開『ももへの手紙』のペアチケットを抽選でそれぞれ10名様にお送りします。

ご希望の方は、角川通信のご感想や経営に関するご質問とともに、お名前、ご住所、お電話番号、希望される商品をご記入のうえご応募ください。

©2012『ももへの手紙』製作委員会

●あて先
〒102-8177東京都千代田区富士見2-13-3
株式会社角川グループホールディングス
IR・広報室「プレゼント」係

●応募締切り　2012年 3月 30日（消印有効）

発表は発送をもって代えさせていただきます。なお、取得した個人情報は当選者の方に商品を発送するためだけに使用し、他の目的では使用いたしません。

第58期第3四半期報告書 | 2011年4月1日～2011年12月31日 |

角川通信 29

http://www.kadokawa-hd.co.jp/
2012春号 VOL.

メディアワークス文庫
『ビブリア古書堂の事件手帖～栞子さんと奇妙な客たち～』
『ビブリア古書堂の事件手帖2～栞子さんと謎めく日常～』
著／三上延

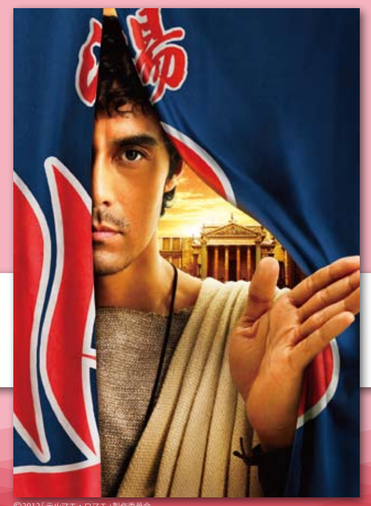
『ビブリア古書堂の事件手帖』は、鎌倉の古書店を舞台に、美貌の店主・篠川栞子と訳あって本が読めない青年・五浦大輔が、奇妙な客が持ち込む古書の謎を解き明かしていくビブリオミステリ。シリーズ（2巻）累計発行部数200万部を突破！

角川グループホールディングス

ももへの手紙
2012年4月21日（土）全国ロードショー

©2012『ももへの手紙』製作委員会

テルマエ・ロマエ
2012年4月28日（土）全国東宝系ロードショー



©2012「テルマエ・ロマエ」製作委員会

第３四半期（累計）は売上高1,075億円（前年同期比31億円増）、営業利益55億円（前年同期比１億円増）となりました。10月から12月までの３ヵ月間では、書籍とネット・デジタルが好調を維持し、書籍では、『テルマエ・ロマエ』（コミックス）、『ビブリア古書堂の事件手帖』（文庫）、『とある魔術の禁書目録』（ライトノベル）シリーズの販売が好調でした。ネット・デジタルでは、インターネット通販、パッケージゲームの販売が好調でした。

第３四半期（10月から12月）の主なヒット作品

▼単行本
1位 ジェノサイド
2位 9割がバイトでも最高の感動が生まれるディズニーのホスピタリティ
3位 世界一かんたん定番年賀状2012

▼ライトノベル
1位 新約 とある魔術の禁書目録③
2位 バカとテストと召喚獣⑩
3位 魔法科高校の劣等生④ 九校戦編（下）

▼シリーズ
1位『テルマエ・ロマエ』シリーズ
2位『よつばと！』シリーズ
3位『境界線上のホライゾン』シリーズ

▼文庫
1位 ビブリア古書堂の事件手帖②
2位 ビブリア古書堂の事件手帖
3位 心霊探偵八雲⑦

▼コミック
1位 テルマエ・ロマエⅣ
2位 よつばと！⑪
3位 とある科学の超電磁砲⑦

▼ゲーム
1位 とある科学の超電磁砲
2位 メタルマックス2：リローデッド
3位 ロウきゅーぶ！

製作の現場から

『ももへの手紙』4月21日（土）全国ロードショー

『ももへの手紙』は、豊かな自然とやさしい人々が生きる瀬戸内の小さな島で、主人公「もも」に訪れる不思議な日々を描いた家族の愛の物語です。映画の魅力や、公開までの苦労話を開発から本作品に携わっている（株）角川書店 映画企画局の池田局長に聞きました。

Q. 昨年から池田局長が熱くおススメされていた『ももへの手紙』がいよいよ公開です。

A. 2004年春、沖浦監督の原案から当初４人で「開発」を始めた映画が、予定の4年の倍、8年の歳月をかけて、ようやく公開になるので感無量です。映画製作に携わっていると完成前に次の作品のことを考え始めるものですが、『ももへの手紙』に携わった人の多くが、完成したときに放心状態になるほど全身全霊を注いだ作品となりました。

Q. ちなみに映画の「開発」とは具体的にどんなことをするのでしょう。

A. アニメーションと実写では異なりますが、今回のようなオリジナルアニメでは、まずストーリーや設定を作っていく作業から始めます。最初はプロットといったストーリーの要点を簡潔にまとめたものを作り、そこから物語を膨らませて脚本を製作していきます。また、登場人物のデザインやキャラクター設定、さらに主人公が住む町など、物語の舞台となる場所の風景を、ロケハンもしながらデザインしていきます。そして実際にキャラクターを場面に組み合わせて、様々な検証を行なっていきます。

Q.『ももへの手紙』の舞台はどこですか。

A. ももがお母さんと引っ越す島は瀬戸内海の大崎下島です。そのほか広島市などを中心にロケハンを行ない、江戸情緒的な要素を加えながら風景を作っています。その縁で広島県からは県知事の推薦もいただき、公開前のイベントを開催したり、一足早く4月7日に先行公開されます。

Q. どのような方に見ていただきたいですか。

A.『ももへの手紙』は、家族の愛の物語です。主人公は11歳の女の子。非常に多感で、色々な経験を通して大きく成長していく時期です。全ての女性が経験、もしくはこれから経験することなので、女性の方は皆さん共感できたり、懐かしく感じられることだと思います。だから、多くの女性の方に観てもらいたいですし、できれば親子で観ていただきたい作品です。

また、ももが出会う不思議な妖怪たちは、見た目はあまり可愛いらしくないのですが、物語が進むにつれ、とっても可愛いらしく感じられてくるギャップが魅力です。キャラクター設定をはじめ、日本アニメ界の最高のスタッフが集結しているので、アニメファンの方々にもぜひ観ていただきたいです。

株式会社角川書店 映画企画局 局長
池田宏之

Q. 角川グループにとっては初の完全オリジナルアニメ映画となりますが。

A. 映画業界にはコミックや小説の原作がないオリジナルアニメは、一部を除きヒットしない、というジンクスがあります。『ももへの手紙』はこのジンクスを破ることも大きな目標です。私たちが世界に誇れる素晴らしい日本の風景や文化、心を最高のクオリティーで表現した作品をヒットさせて、新たな角川映画のブランドとしていきたいと考えています。今年の角川映画は『貞子３Ｄ』や『天地明察』などの期待作が多くありますが、『ももへの手紙』はオリジナルアニメということで、より愛情を濃くしてあげないといけない、手塩にかけて育てる子どものようだと思います。幸い作品が評価され、製作委員会には13社のご参加をいただき、そのほか多くの企業や団体に応援をいただいています。株主の皆さまにもぜひ温かい目で応援していただけるようお願いいたします。

原案・脚本・監督：沖浦啓之　声の出演：美山加恋　優香　西田敏行　山寺宏一　チョー
作画監督：安藤雅司　副作画監督：井上俊之　美術監督：大野広司　音楽：窪田ミナ
主題歌：原由子「ウルワシマホロバ～美しき場所～」（タイシタレーベル／ビクターエンタテインメント）
製作：『ももへの手紙』製作委員会　制作：プロダクション I.G　配給：角川映画
助成：文化芸術振興費補助金　©2012『ももへの手紙』製作委員会

社長メッセージ

強い角川グループ作りに向けた取り組み

KADOKAWA

代表取締役社長
佐藤 辰男
Tatsuo Sato

角川グループは、市場の急激な変化に対応するため抜本的な構造改革を断行し、収益力の向上に取り組んでいます。強い角川グループ作りに向けた活動内容について、皆さまにご報告申し上げたいと思います。

角川書店、角川映画合併による シナジーの最大化

2011年1月に行なわれた事業再編の一環として、角川書店と角川映画が合併しました。出版と映像のシナジー効果を最大限発揮していくところに、角川グループの強みがあると考えています。今後も、文芸、ライトノベル、コミックスなどを原作とした幅広いジャンルから、新作映画が続々登場します。『ももへの手紙』『テルマエ・ロマエ』『図書館戦争』『天地明察』などの話題作が公開を控えており、厚みのある充実したラインナップとなっています。当グループのメディアミックス展開はより一層活性化していくと考えています。

ゲーム事業、3本柱の確立を

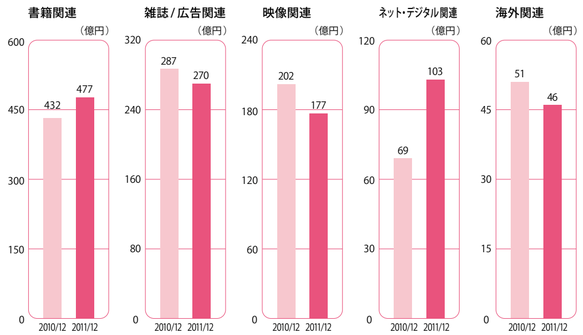
角川グループでは、出版、映像に加えゲームにも本格的に取り組んでいきたいと考え、準備を進めてきました。すでに、キャラクターゲームでは、角川書店、アスキー・メディアワークス、エンターブレインからヒット作品が続々と出てきています。また、海外展開を見据えたオリジナルゲームにも力を入れ、国内でのゲーム展開だけでなく、アメリカ・ヨーロッパ市場でも販売する商品が本年6月に発売となります。さらに、ソーシャルゲームにも注力しており、『生還せよ！戦国自衛隊』『秘録 妖怪大戦争』『ガメラバトル』などの映画から生まれたタイトルや、『ダビスタfor GREE』などが登場しています。これまで力を入れてきたキャラクターゲームにオリジナルゲーム、ソーシャルゲームを加えた3本柱で、ゲーム事業での成長路線を描いていきます。

出版領域におけるシェア拡大

昨年、メディアファクトリーが角川グループの仲間入りをしました。メディアファクトリーは出版、映像、玩具、音楽という四つの「領域」において事業展開をしており、良質なコンテンツを様々なメディアを活用して、世に送り出しています。同社がグループに加わったことで、一般文芸書、ライトノベル、コミックスなど従来の出版領域の厚みが増し、さらに、女性向けコミックエッセイ、児童書などの新たな領域が加味され、より一層出版領域におけるシェアが拡大しました。

コンテンツビジネス市場は激動期に突入していますが、強い角川グループ作りを目指し、時代の変化を捉え、これからも様々な挑戦をしていきたいと考えています。株主の皆さまにおかれましては、今後も変わらぬご理解とご支援を賜わりますよう、よろしくお願いいたします。

分野別売上高（第3四半期累計期間）



売上高 1,075億円 ＋3.0%

営業利益 55億円 ＋2.6%

三つの重要な取り組み

三つの重要な取り組み その1 厚みの増した新作映画ラインナップ

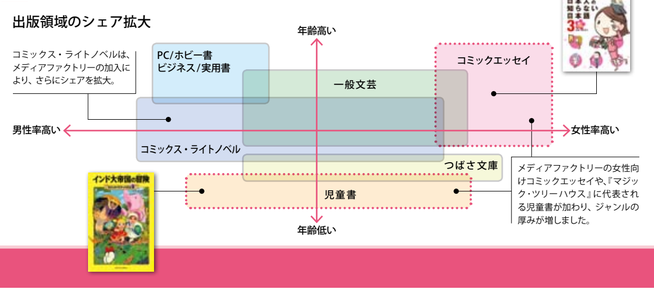
角川書店と角川映画の合併により、培ってきたノウハウが共有化されただけでなく、映画、劇場版アニメの企画・製作・配給が一気通貫となり、さらなるシナジー効果が期待できます。

三つの重要な取り組み その2 ゲーム事業3本柱で成長路線を描く

ゲーム事業の成長を支えてきたキャラクターゲームに加え、世界市場を狙うオリジナルゲーム第一弾として、『LOLLIPOP CHAINSAW』が6月に発売されます。ソーシャルゲームでは、角川グループが持つコンテンツの強みを、市場動向に合わせて新たに展開することで、収益機会の拡大を目指します。

三つの重要な取り組み その3 メディアファクトリー加入による出版領域のシェア拡大

コミックス、ライトノベルは、メディアファクトリーの加入により、シェアをさらに拡大しています。女性向けコミックエッセイや、『マジック・ツリーハウス』に代表される児童書は、これまでの角川グループが充分カバーしていない領域です。



TOPICS

AMW「第18回電撃大賞」応募総数は過去最多の5,862作品

2011年11月上旬、アスキー・メディアワークス主催「第18回電撃大賞」の贈呈式が開催されました。これまでにも、上遠野浩平氏、有川浩氏、支倉凍砂氏、橋本紡氏、成田良悟氏などの人気作家が受賞し、アニメ化された『灼眼のシャナ』（著者・高橋弥七郎氏）、『境界線上のホライゾン』（著者・川上稔氏）、『C³–シーキューブ–』（著者・水瀬葉月氏）も電撃大賞受賞者の作品です。また、4月にTVアニメ化される『アクセル・ワールド』（著者・川原礫氏）は、第15回電撃小説大賞の<大賞>を受賞しています。

18回を迎えた今回は、応募総数が史上最多の5,862作品となり、電撃小説大賞<大賞>受賞作『エスケエプ・スピキド』（著者・九岡望氏）をはじめ、2月に新刊が発売されています。受賞者の今後の活躍にご期待ください。

第18回電撃小説大賞〈大賞〉受賞作

電撃文庫 『エスケエプ・スピキド』
著者／九岡 望 イラスト／吟

「ニコニコ静画（電子書籍）」、「BOOK☆WALKER for GREE」サービス開始

2011年11月8日、ドワンゴとの業務提携の一環として「ニコニコ静画（電子書籍）」（写真）のサービスが開始されました。「ニコニコ静画（電子書籍）」はニコニコ動画でおなじみのコメント投稿機能やツイッター連携で、読んだ本の感想などをユーザー同士共有することができます。対応作品であれば「BOOK☆WALKER」で購入した作品の閲覧も可能です。ニコニコ動画と角川書店が連携した新しいWEBコミック誌「角川ニコニコエース」も同時に創刊され、「ニコニコ静画（電子書籍）」で配信開始となりました。

また、12月には、Android端末向けアプリケーション「BOOK☆WALKER for GREE」の提供を開始しました。本サービスでは、「GREE」の特徴である、ゲームやソーシャル・ネットワーキング・サービスの要素を取り込んでおり、一般的な本の閲覧や購入に加え、「オススメ」コメントの投稿、ユーザー同士のコミュニケーションなどが可能となっています。

「コンプティーク」28周年＆400号

ゲーム、アニメ、漫画などの情報やコンテンツが充実しているメディアミックスマガジン「コンプティーク」が、2011年11月10日発売の12月号で28周年＆400号の節目を迎えました。「コンプティーク」は「戦うパソコンゲーム マガジン」として創刊され、ゲームの裏技紹介で読者を増やしました。その後、次第にメディアミックスにシフトし、人気コンテンツを数多く輩出してきました。

現在では『らき☆すた』『放課後アトリエといろ』『フェイト／エクストラ』などの人気コミックが好評連載中で、400号からは『ストライクウィッチーズ アフリカの魔女』のコミック連載がスタートしました。

『「生徒会の一存」で古文単語が面白いほど身につく本』発売

「富士見ファンタジア文庫」刊の大人気ライトノベル『生徒会の一存』シリーズに登場するキャラクターたちが、古文単語を楽しく覚えられるように盛り上げてくれる画期的な古文単語集が誕生しました。収録している300語の単語全てにイラストが入っており、単語ひとつひとつをイメージで覚えることができる学習参考書となっています。

『ジェノサイド』が「このミステリーがすごい！2012」第1位、「週刊文春ミステリー10」第1位

2011年3月発売の『ジェノサイド』（著者・高野和明氏）が「このミステリーがすごい！2012年版【国内編】」、「週刊文春ミステリーベスト10【国内部門】」にて第1位に選ばれました。新たな称号を得て、売上もさらに伸長しています。なお、『ジェノサイド』は「メディアワークス文庫」の『ビブリア古書堂の事件手帖』とともに、今年4月発表の「本屋大賞」にもノミネートされました。

「JAPAN PREMIUM 日本自游行」創刊

角川グループと近畿日本ツーリストの合弁会社ティー・ゲートは、日本の観光情報を紹介するフリーペーパー「JAPAN PREMIUM 日本自游行」を創刊しました。北京・上海・広州・大連に住む、過去1年以内に訪日旅行経験がある富裕層を対象に、ダイレクトメールで約5万部を配布。香港の角川洲立出版（角川ホールディングス・チャイナの100%子会社）が発行し、中国から香港に渡航する個人旅行者を読者とした「香港自游行」（年4回発行）の実績を基に、これまでにない差別化を実現し、年4回の発行を予定しています。

『マジック・ツリーハウス』映画がヒット！

『マジック・ツリーハウス』は、アメリカ・ペンシルベニア州に住むジャックとアニーの兄妹が、ある日森の木の上にある不思議な小屋を発見し、その小屋からあらゆる時代にタイムスリップして、様々な冒険をしていく物語。原作シリーズは、全世界で1億冊を超える大ベストセラーです。

映画『マジック・ツリーハウス』は、昨年10月、東京国際映画祭に特別招待作品として出品されました。グリーンカーペットにはアニー役の芦田愛菜さん、原作者のメアリー・P・オズボーンさん、錦織博監督、主人公ジャック＆アニーの着ぐるみが登場。各国のメディアや沿道の観客は、ねずみの“ピーナッツ”のぬいぐるみを抱いた芦田愛菜さんに釘づけでした。また、リブロ池袋本店で行なわれた著者サイン会では、来場者が予定の100名を超えて大好評でした。

そして、1月7日に映画が全国公開され、ファミリー層を中心に大ヒット。31巻まで発売されている原作も、売上部数が順調に伸びており、知名度も大幅にアップしています。

名作探訪（第3回）

『リング』（1998）
―一大ホラーブームを巻き起こしたヒット作―

『リング』 製作年：1998年 原作：鈴木 光司
©1998「リング」「らせん」製作委員会

今を遡ること14年前の1998年1月、鈴木光司氏のベストセラーを原作に、映画『リング』『らせん』が劇場公開され、配給収入※10億円を記録しました。もちろん原作の角川ホラー文庫『リング』『らせん』、そしてその完結編にあたる単行本の『ループ』も記録的なヒット作品となりました。

見た者を1週間後に呪い殺す「呪いのビデオ」といった斬新な設定もさることながら、井戸の中やテレビから現れる貞子のインパクトと主題歌「feels like “HEAVEN”」の強烈なイメージは、今もバラエティ番組などで使われるほど定着しています。

ちなみに『リング』には本作が映画初主演となる松嶋菜々子さん、冒頭、最初の犠牲者となる女子高生役で竹内結子さんが出演しています。

そして翌年には、映画オリジナルの続編で『リング2』が公開され、さらに2000年には第3作『リング0 バースデイ』が公開されました。

日本ホラー映画史に大きな足跡を残した作品が、5月12日、新たに蘇ります。“呪いのビデオ”は“呪いの動画”となり、さらにテレビだけでなくスクリーンからも飛び出す『貞子3D』となっての登場です。主演は、若手トップ女優の石原さとみさん。貞子との壮絶な戦いに挑みます。原作は鈴木光司氏によるシリーズ最新書き下ろし『エス』。あわせて関連書籍も大展開。貞子ブームの到来にご期待ください。

『貞子3D』 製作年：2012年 原作：鈴木 光司
©2012「貞子3D」製作委員会

※現在は入場料の合計金額である興行収入が映画の成績となりますが、1999年までは配給元の売上である配給収入が発表されていました。